

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
20	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Multicenter assessment of the revisit risk for a further drug-related problem in the emergency department in cocaine users (MARRIED-cocaine study) 救急診療部のコカイン使用者におけるさらなる薬物関連問題による再来院リスクの多施設評価(MARRIED-cocaine study)	
<b>執筆者</b>	
Galicia M, Nogué S, Casañas X, Iglesias ML, Puiguriguer J, Supervía A, Aguirre A, Clemente C, Puente I, Echarte JL, García-Pérez C, Burillo-Putze G, Bernal A, Busca P, Gil E, Mirò Ò.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Clin Toxicol (Phila). 2012 Mar;50(3):176-82.	
<b>キーワード</b>	
コカイン、救急診療部再来院、ストリートドラッグ	
<b>要旨</b>	
<b>序論と背景：</b> スペインでは、多くの人々がコカイン使用の結果、副作用や臨床的合併症で毎日救急診療部に来院する。退院後、一部の人々は1年以内に同じ理由で再来院する。本研究の目的は再来院の割合を定量化し、これらと関連する要因を同定することである。	
<b>方法：</b> 対照群を伴わない後ろ向きでの多施設コホート追跡研究で、2009年の1月から12月の12か月間、スペインの病院6施設の救急診療部で行われた。対象者はコカイン関連兆候で来院したすべての救急診療部の患者の中で最近のコカイン使用を報告した者、および自己申告でコカイン使用を報告しなかったが尿よりコカインの陽性反応を認めた者である。各病院の救急診療部で12の独立変数を評価した(性、年齢、摂取場所、月、日、摂取時間、救急診療部に来院時の状態、退院時診断、薬物使用およびアルコール使用に関連する救急診療部への来院歴)。従属変数は薬物使用に関連した症状での救急診療部への再来院で、電子化された病院入院システムを使用して同定された。	
<b>結果：</b> 807名中、再来院の割合は30日以内で6.7%、3か月以内で11.9%、1年以内で18.9%であった。再来院と有意に関連した変数は、コカインに関連する臨床所見の存在 ( $p<0.05$ )、就業日に来院 ( $p<0.05$ )、薬物関連での救急診療部への来院歴 ( $p<0.001$ )、アルコール関連での救急診療部への来院歴 ( $p<0.001$ )、精神科医の評価を必要とする緊急事態の有無 ( $p<0.001$ )であり、最後の4変数のみが多変量解析にて独立した予測変数であった。再来院のリスクをこれらの変数からスコア化して導き(MARRIED-score、範囲:0~400)、これが再来院を予測することに有用であることを確認した(ROC=0.75、95%CI: 0.71-0.79)。	